

原子炉実験所だより

目次

1. 平成6年度共同利用研究（追加申請）の審査結果について	1
2. 第29回原子炉実験所学術講演会開催案内	2
3. 平成6年度下半期学術公開	3
4. 研究成果データベースの更新に関するお願い	3
5. 共同利用研究申請者各位へ	4
6. 「ご挨拶に代えて」（森山裕丈）	6
7. 瀬尾 健博士逝去される	7
8. 外国人研究員の受入れについて	9
9. 外国人研究者講演会報告	9
10. 大阪ニュークリアサイエンス協会賞の受賞について	10
11. 教官公募について	10
12. 審議員の異動	12
13. 職員の異動	12
14. 委員会メモ（平成6年5月～平成6年7月）	13
編集後記	14

1. 平成6年度共同利用研究（追加申請）の審査結果

平成6年度の共同利用研究（追加申請）の公募には、プロジェクト採択1件、通常採択7件の申請があり、第155回運営委員会での審査の結果、下記のとおり採択されました。

採択内訳 プロジェクト採択1件 共同通常5件 一般通常1件

平成6年度下半期共同利用研究採択一覧表（プロジェクト採択分）

代表申請者	宇津呂雄彦	研究題目	超冷中性子崩壊実験におけるボトル条件の最適化に関する研究
申請者・協力者		研究題目	実験所内 連絡者
氏名	所属・職名		
樋口 正人	東北学院大・工	教授	宇津呂 川端 奥村
佐藤 稔	"	"	
北垣 敏男	"	講師	
川嶋 崇之	"	院生	
加賀谷真仁	"	"	
宇津呂雄彦	京大・原子炉	教授	
川端 祐司	"	助手	
奥村 清	"	技官	

平成6年度下半期共同利用研究採択一覧表（通常採択分）

申請者・協力者		研究題目	採択 区分	実験所内 連絡者
氏名	所属・職名			
種田 健造	岩手大・農	教授	共同	中野 武内
荻山 紘一	山形大・農	"		
Islam MD Anwaul	"	院生		
中野 幸廣	京大・原子炉	技官	共同	林 禎彦 義家
木野村 淳	大阪工業技術研	研究員		
藤井 兼栄	"	室長		
林 禎彦	京大・原子炉	技官		
義家 敏正	"	教授	共同	長谷 薬科
小笠原正明	北海道教育大函館校	教授		
竹中 康之	"	講師		
宮武 陽子	阪大・基礎工	教務員		
長谷 博友	京大・原子炉	助教授	共同	中野 武内
片山 眞之	阪府大・農	助教授		
片山 洋子	阪市大・生活科	教授		
副島 孝一	"	院生		
中野 幸廣	京大・原子炉	技官	共同	岩田
橋本真佐男	神戸大・理	助教授		
北川 裕二	"	学生		
小澤 正人	"	"		
岩田 豊	京大・原子炉	教授	一般	高田
西田 幹夫	名城大・薬	教授		
稲垣 員洋	"	講師		
原 祐輔	"	学生		
中根 茂喜	"	"		
稲垣 正己	"	"		

（平成6年7月8日運営委員会）

2. 第29回原子炉実験所学術講演会開催案内

第29回京都大学原子炉実験所学術講演会が下記の要領で計画されています。
多数の方々のご参加、ご講演をお願いします。所外からの講演者（1題につき1名）には、実験所から旅費が支給される予定です。

記

- ◎ 学術講演会開催日 : 1995年2月8日（水）、9日（木）の両日
両日とも9時30分開始17時終了の予定ですが、演題数により変わることがあります。
- ◎ 開催場所 : 京都大学原子炉実験所 事務棟会議室
- ◎ 講演会内容 : ① 一般講演
原子炉実験所内外の研究者が実験所の施設、設備、技術を利用して、今までに行なった研究成果を公開発表する。お申込みはこのカテゴリーでお受けします。1題当り研究発表15分、質疑5分の計20分を原則とします。
- ② 特別講演（予定）
イ）菊池忠壽助教授（核生物学研究部門）の停年退官に当たりの記念講演（60分程度）
ロ）30周年にちなんだセッション
学術公開委員会の企画による特別講演を3題（各40分程度）
- ◎ 申込方法
（1）講演題目申込締切 : 1994年11月7日（月）（必着）
（2）申込先 : 京都大学原子炉実験所学術公開委員会
委員長 水間 満郎 宛
（3）申込書 : 本号末尾の用紙をご使用下さい。
- ◎ 講演会報文集原稿提出締切日 : 1994年12月9日（金）（必着）
原稿はワープロにより作成する（A4、10枚以内）。
原稿作製要領等は申込みを受け付け次第お送りします。

3. 平成6年度下半期

京都大学原子炉実験所の学術公開について

京都大学原子炉実験所では、平成5年度下半期の学術公開（学術関係団体を対象とする施設の公開見学）が、次のとおり実施されます。

日	時	平成6年10月 3日（月）	午後1時～4時
		平成6年11月 7日（月）	〃
		平成6年12月 5日（月）	〃
		平成7年 1月 9日（月）	〃
		平成7年 2月 6日（月）	〃
		平成7年 3月 6日（月）	〃

申込方法 希望日の前々週の水曜日までに希望月日、団体名、責任者名及び見学者名を明記した文書で申し込むこと。

申込み先 〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田
京都大学原子炉実験所 総務課庶務掛まで
☎(0724) 52-0901（代） 内線 2112

4. 研究成果データベースの更新に関するお願い

先年来、研究成果データベースの作成にあたり、多大のご協力を賜り、深く感謝申し上げます。お蔭様で、現在までに当実験所が設置されました1963年から1992年までの30年間に公表されました出版物（論文・著書等）約6,210編に関するデータを、京都大学大型計算機に入力することができました。

一方1993年以降の出版物（論文・著書等）についてもデータを追加していく必要があります。

ますので、1993年12月までに皆様が公表されました出版物（論文・著書等）に関して当実験所所定の研究成果調査票にご記入下さり、別刷（又はそのコピー）1部を添付のうえ、1994年10月末までにご送付下さいますようお願い致します。また1992年以前の出版物（論文・著書等）につきましても未提出のものがありましたら、同様にお送り頂ければ幸いです。重ねて、ご協力賜りますようお願い致します。

ます。

なお、KURRI Progress Report用その他の理由で、別刷をすでに共同利用掛までお送りいただいた方は結構です。また、研究成果調査票を必要とされる方は、お手数ですが、下記までご請求下さい。（要覧委員会）

請求及び送付先：

〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田
京都大学原子炉実験所
要覧委員会（武内孝之）宛

5. 共同利用研究申請者各位へ

当実験所における共同利用による実験・研究は、年度当初に決められた研究炉使用計画に基づき、実験所運営委員会において共同利用研究申請の審査、採択を行い、その後、個々の申請に係る実験の実施時期について、各申請者の希望を考慮し所内の委員会で調整の上、タイムスケジュールを作成し、これに則って実施されています。

各申請者に対しては採択の後、実験・照射申込に当たっての必要書類をお送りしていますが、それらの書類が定められた締切日までに提出されないケースがしばしばあり、関係掛、担当部所においてはその対応に苦慮しております。締切日までに必要書類の提出がない場

合は電話により督促を行っておりますが、出張等による不在で連絡が一回で取れないことも多く、それに要する担当者の手間や電話料金の負担も決して少なくありません。

これらの負担を少しでも軽減すると共に、連絡をより確実なものにするために、当実験所では、今後これらの督促に係る連絡事務を電話からファックスで行うよう改めていく方針ですが、申請者から定められた締切日までに必要書類の提出があれば、本来は不必要な事務ですので、関係者各位のご協力をお願いいたします。

なお、ご参考までに採択から来所までに係る各必要書類の流れを次頁に掲載致します。

（中央管理室、共同利用掛）

注 意 //

特に、生物・医学関係者の書類提出の遅れが目立ちます。生物・医学実験では「生き物相手であるため」という事情は理解できますが、提出後、変更日を受付けますので、必ず期限をお守り下さい。今後、期限が守られない場合には、連絡なしに実験の申込みをお断りすることがありますので、ご了承下さい。

中央管理室長

－ 採択から来所まで －

○採択通知送付（実験予定計画書、研究炉使用計画同封）



○共同利用掛へ実験予定計画書提出（締切日－採択通知に記載）



○タイムスケジュール作成



○照射・実験、来所日時決定通知送付（実験記録、照射記録、出張計画等同封）



○実験・照射申込－実験記録、照射記録、出張計画等の必要書類提出
（締切日－研究炉使用計画に記載－利用の4週前の金曜日）



○実験所において計画調整会議（利用の3週前の月曜日に開催）



○中央管理室から申請者にハガキによる利用通知送付
（利用の約2週間前に送付）



○申請者から中央管理室へ電話にて上記の利用通知に対する回答
（締切日－実験開始予定日の10日前）



○実験所長から申請者の所属長へ出張依頼



○申請者の所属長から実験所長へ上記の出張依頼に対する回答



○実験のため来所

6. 「ご挨拶に代えて」

京大・原子炉実験所 森山裕文

早いもので、この便りが皆様のお手元に届くのは、私の着任からほぼ一年が経過しようとしている頃になります。この期間にもいろいろなことを見聞きし、また多くの貴重な経験を得ました。これらのことを通じて現在感じていることなどを述べ、着任の挨拶に代えたいと存じます。

工学部工業化学科四回生の春、核エネルギーへの漠然とした期待を抱き、原子エネルギー研究所原子燃料部門への講座配属を希望しました。以来、原子炉実験所の共同利用実験に参加させていただくことになりました。原子エネルギー研究所での大学院生時代はもちろんですが、工学部原子核工学科に職を得ましてからも、年間を通じて計4週間の共同利用実験をほぼ毎年のように続けさせていただきました。20年以上にわたるわけですから、これだけでもかなりの期間を実験所で過ごしたことになります。この間、共同利用実験を通じて、多くの方にお世話になり、さまざまなことを教わって参りました。着任に際してさほどの違和感を持たなかったのはこのお蔭と感謝いたしております。

この度着任してあらためて感じましたのは、当然のことかも知れませんが、なるほど大きな組織であること、実に多くの分野の方々がおられること、そして、それにもかかわらず、普通の部局ではみられないような、どこか家族的な一体感があるということなどです。これまで私が所属していたところは、研究室単位でまとまることが多く、大きくても教室単位の数十名ぐらいでたいいの話がすみました。それに比べると、実験所ではさまざまな

分野の研究者を含めて200人近くの方々がおられるわけです。普通ならそういう一体感など望めそうもないところですが、それが感じられるのはやはり原子炉の存在があるからに違いありません。その存在の大きさを、いろいろな意味で、いまさらながら感じているところです。

現在の私の専門は、主として核燃料サイクルのための化学の研究です。核燃料サイクルの研究は貴重な核エネルギー資源を安全かつ有効に利用するためのものです。その研究には、燃料の製造をはじめとして、使用済燃料の再処理や放射性廃棄物の処理処分の研究などが含まれており、化学の関与するところが少なくありません。これらについて基礎的な研究を進めています。これまでに多くの研究がなされ、実際のプラントもいくつか稼働しているわけですが、例えば、将来的な眼で眺めてみますと、それらがはたして最適のものかどうかという疑問が生じてきます。また、放射性廃棄物等に関わる未開発の課題も山積しています。そして、このような問題に対して本質的な解答を見出すためには、まだまだ多くの基礎的な研究が必要とされているのです。短期間に華々しい成果は望めませんが、長期の視点をもって着実に進めることの必要な研究分野です。これらの研究に原子炉が必要であることは言うまでもありません。

その原子炉の在り方が問われてきました。一段落したかにみえますが、この問いかけが今後も続くことは間違いありません。むしろそれは今後ますます厳しくなると考えられます。しかしながら、それだからこそ、時間を

かけてじっくりと問題の本質を見極める必要があるのではないかと思います。大型の施設であるからこそ、長期の視点が必要であり、慎重な対応が必要です。また、原子炉自体がそうであるように原子炉を利用する研究にも長期の視点をもって行われているものがたく

さんあります。これらの研究の意義を短期の視点で判断することは適切ではありません。原子炉とそれを利用する研究について安易に道を選ぶことがあってはならず、必然性をもって着実に歩を進めていくべきと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(ホットラボ部門教授)

7. 瀬尾 健博士逝去される

当実験所、計測装置部門助手、瀬尾健先生におかれましては、病氣療養中の所、去る6月5日逝去されました。享年53才。ここに慎んでご冥福をお祈りすると共に先生のご業績を偲び、その略歴と、告別式における同部門、岡野事行教授の弔辞を再掲させていただきます。



先生は、昭和39年3月京都大学工学部を卒業、昭和41年3月同大学院工学研究科修士課程（原子核工学専攻）を修了後、同年4月京都大学原子炉実験所助手に就任された。先生の専門は原子核物理学（実験）で、本実験所計測装置研究部門において、原子炉で生成される放射性同位元素を用いて原子核構造に関する研究を行われ、幾多の世界的に高く評価される業績を挙げられた。昭和52年には、核励起準位の核磁気モーメントに関する研究で理学博士の学位を取得された。最近では、超短時間測定法を開発され、ピコ秒領域の核準位寿命の測定を精力的に進められていたことは注目に値する。また原子力災害を的確に評価する手法についても研究を重ねられ、これを通じて社会的活動にも足跡を残された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(原子炉実験所)

弔 辞

親愛なる瀬尾君、つい先日迄元気に活躍しておられた君が、かくも早く主の御もとに召されるとは何人も想像し得ないことでした。研究室での太い柱の一つを荷っておられたのに、かくも若く召されるとは、我々研究室の者一同、心痛の至りであります。原子炉実験所にとりまして大変な時期

を迎え、全く耐え難い損失であり、心から残念に思う次第であります。かえり見ますと、瀬尾健君は昭和39年から41年にかけて京大原子核工学教室において高速中性子の測定器関係の研究をされ、修士の学位を得られた後私と丁度同じく昭和41年4月に京都大学原子炉実験所に入所され、計測装置部門に配属せられたのでした。同部門では、林竹男先生の御指導のもとに、ガンマ線角度相関測定法等を用いた原子核構造の研究を開始されました。原子炉で生成される放射性同位元素を用い、ガンマ線の角度相関や核励起準位の核磁気モーメントの測定、核準位寿命の測定、核励起準位と崩壊図式の決定等、多方面に互り、持前の緻密さで世界的な業績をあげてられました。ドイツ・ユーリッヒの原子力研究所に留学されてからは、特に変形核の励起構造に関する理論計算に於ても高く評価される業績を発表してられました。これらの御仕事は、つい先日迄日々休まず続けられ、最近では特に励起準位の寿命の測定に於て世界第一級の成果を出されつつある所でした。

これら原子核構造関係の御研究と共に、科学と社会との関係についても人並ならぬ関心を寄せられ、特に原子力災害の危険性について強く世に訴えられる御仕事をしておられた事は、広く人の知る所であります。スリーマイル島やチェルノブイリの原子力発電所の事故に際しては、放出放射能量等を緻密に評価され、その危険性をいち早く指摘されたのでした。これらの御活動の足跡はきっと末永く人々の心のなかに生き続ける事と信じる次第であります。原子炉実験所の狭い門、細い道をこつこつと着実に成果を手にしながら歩まれて来た瀬尾君の魂が、永遠の命を人々の中に生き、我々をささえてくれることでしょう。主よ、どうか安らかな眠りについたしもべ瀬尾健君に豊かな祝福と恵みを与え、救いのみ業を成就して下さい。ここに計測装置部門核グループを代表して謹んで哀悼の意を表する次第であります。

平成6年6月7日

京都大学原子炉実験所教授

岡 野 事 行

8. 外国人研究員の受入れについて

氏 名 (所 属)	国 籍	研 究 題 目	受 入 期 間	備 考
張 金 忠 (中華人民共和国 南開大学生物学系助教授)	中 華 人 民 共 和 国	高等生物における 葉緑体の形質転換 と中性子育種に関 する基礎的研究	平成6. 8. 23 ～6. 11. 20	

9. 外国人研究者講演会報告

原子炉利用研究者グループの後援により、下記のとおり講演会が行われました。

① 平成6年5月18日開催

“Nuclear power problem in Australia”

Dr. B. Martin

(Wollongong University Australia)

② 平成6年5月30日開催

“Recent Investigations in Belarus about the Consequences of the Chernobyl Accident”

Dr. Vlamdimir P. Matsko

(Institute of Radiobiology, Academy Sciences of Belarus)

“Monitoring Activities in Belarus just after the Chernobyl Accident”

Dr. Yuri V. Dubina

(Institute of Radioecological Problems, Academy Sciences of Belarus)

③ 平成6年8月2日開催

“Environment Problem in Australia”

Dr. Sharon. Beder

(Wollongong University Australia)

10. 大阪ニュークリアサイエンス協会賞の受賞について

このたび、原子炉実験所技術室高見 清枝
官に大阪ニュークリアサイエンス協会賞が授

与されました。受賞式は、5月26日、NT
T大阪内本町会館で行われました。

11. 教官公募について

下記のとおり、教官の公募を行います。

京都大学原子炉実験所は、原子炉による実験及びこれに関連する研究を行うことを目的として設置された全国大学等の共同利用研究所です。当原子炉実験所では、研究炉KURの高度な利用を中心とした研究を行うため、研究組織を再編成し、より活力のある研究所として生まれ変わるよう努力しています。

今回の公募は、その一環として、研究の推進に意欲を持ち、共同利用研究を円滑に行う

ことにも努力を惜しまない人材を募るものです。

詳しくは原子炉実験所総務課庶務掛（TEL 0724-52-0901 内線 2111）まで照会下さい。

公募締切りは、記の1については平成6年10月31日（月）午後5時（必着）、記の2については平成6年9月26日（月）午後5時（必着）です。

記

1. 教授公募について

区 分	職名及び人数	職 務 の 内 容	専門とする学術上の資格に加えて期待される資格等
A	教 授 1 名	放射性廃棄物管理に関連する研究及びその指導並びに原子炉実験所における放射性廃棄物処理部の統括	放射線取扱主任者免状 (第1種)
B	教 授 1 名	放射線安全確保に関連する研究(放射線の計測や生物影響も含む。)及びその指導並びに原子炉実験所における放射線管理部の統括	放射線取扱主任者免状 (第1種)
C	教 授 1 名	原子炉施設や自然環境中における放射性物質の動態及びこれに関連する微量環境汚染物質等の検出法の開発と応用に関する研究並びにその指導	

注1. 研究組織の再編が認められた後には、研究大部門制に移行し、A及びBの区分は原子炉の安全管理に関する研究大部門に、またCの区分は核プロセス化学と共にバックエンド工学研究大部門に属することが予定されています。

これらのことを記載した「京都大学原子炉実験所の整備(案)」を必要とされる場合には、上記の照会先にご請求ください。

2. 本人による直接応募の他、第三者による推薦も受け付けております。

2. 助手公募について

区 分	職名及び人数	職 務 の 内 容	専門とする学術上の資格に加えて期待される資格等
A	助 手 1 名	原子炉を用いたR I ビームの生成に関する開発研究及びそれを用いた研究並びに関連する実験設備の保守・管理	博士の学位を有するか、近い将来に取得見込みで、30才以下の方
B	助 手 1 名	原子炉、加速器等により発生する1次・2次粒子線(光子を含む。)の特性研究及びそれを用いた物性研究並びに関連する実験設備の保守・管理	同 上

注：今回募集の助手の任期は10年を超えないものとします。

12. 審 議 員 の 異 動

京都大学医学部阿部光幸教授が平成6年5月15日付けで審議員を辞任され、その後任として、京都大学医学部小西淳二教授が平成6年6月23日付けで審議員に発令されました。

また、当実験所、松山奉史教授が平成6年7月1日付けで審議員に発令されました。

13. 職 員 の 異 動

1. 退 職

平成6年6月5日	計測装置研究部門 (死亡退職)	助 手	瀬 尾 健
----------	--------------------	-----	-------

2. 昇 任

平成6年6月16日付け	原子炉化学研究部門 (教務職員から)	助 手	高 田 實 彌
-------------	-----------------------	-----	---------

平成6年6月16日付け	放射線物性研究部門 (教務職員から)	助 手	葉 科 哲 勇
-------------	-----------------------	-----	---------

平成6年7月1日付け	放射線化学研究部門 (同部門助教授から)	教 授	松 山 奉 史
------------	-------------------------	-----	---------

3. 配置換

平成6年5月16日付け	原子炉医療基礎研究施設 (医学部附属病院助手へ)	助 手	尾 崎 承 一
-------------	-----------------------------	-----	---------

平成6年5月16日付け	原子炉医療基礎研究施設 (医学部附属病院助手から)	助 手	伊 藤 裕
-------------	------------------------------	-----	-------

14. 委員会メモ（平成6年5月～平成6年7月）

平成6年

- | | |
|-------|----------------------|
| 5月 6日 | 臨時協議員会 |
| 13日 | 平成6年度第2回原子炉安全委員会 |
| 20日 | 審議会・協議員会 |
| 27日 | 第85回臨界集合体実験装置共同利用委員会 |
| 27日 | 臨時協議員会 |
| 31日 | 平成6年度第1回原子炉医療委員会 |
| 6月17日 | 審議会・協議員会 |
| 24日 | 平成6年度第3回原子炉安全委員会 |
| 24日 | 平成6年度第1回保健物理委員会 |
| 7月 8日 | 第155回運営委員会 |
| 12日 | 平成6年度第2回原子炉医療委員会（回議） |
| 15日 | 審議会・協議員会 |
| 22日 | 平成6年度第4回原子炉安全委員会 |

編 集 後 記

昨年の米の凶作と関係した冷夏では、と今年の夏の気候が気になったが、逆に地球規模的な酷暑となり、世界各地で被害が出ている。現実の被害対策と最新の科学技術との間に大きなギャップがあるような気もするが、技術の発展が異常気象の原因の一つになっている様な気配もある。地球が年々狭くなっていくという実感がKURの近くの海上に関西国際空港が実現して、より一層強くなりそうだ。目先の発展の事ばかりに気をとられていると人類の将来という大きな目標を見失い勝ちにならないか、という疑問も生ずる。科学する者の義務であろう。滅亡する運命だと覚悟を決めれば気楽であろうが、恐龍の時代でも3,000万年は続いた。人類はまだ精々10万年である。

来年度にはKURの組織改編がありそうだと聞く。これまでの議論を生かした有機的な組織として有効に機能する事を期待したい。目標をはつきりさせる事により、KURの存在意義も一層はっきりしよう。

先般行われた利用者グループの投票によりニュース担当幹事が交代しました。新しい幹事の方々は、代谷誠治、松山奉史、辻本 忠（以上所内）、竹田敏一、坂本 浩、中川益夫（以上所外）の方々です。前任者同様、宜しくお付き合いの程、お願い申し上げます。

1994年 月 日 申込

第29回京都大学原子炉実験所 学術講演会講演申込書

1. 講演者（所属・氏名 発表者に○印） *）

2. 講演題目 *）

3. 講演希望時間（1題当り講演15分質疑5分を原則としますが、特に長い講演時間を希望される方はお申し出下さい。ただし、プログラムの関係でご要望に添えない場合があることをご了解下さい。）
分

4. 講演内容（300字程度で記載して下さい）

5. 連絡先
住 所
芳 名
TEL () - () - ()
FAX () - () - ()

*）講演者名および講演題目につき、後程ご提出頂く講演会報文集の原稿にも同一の記載をして頂くため、本申込書の写しをお手元に保存しておいて下さい。

キ
リ
ト
リ
線